

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

2025.12.7

学 力 研 発 行

常任委員長 岸本ひとみ

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

ほんものはつづく。つづけるとほんものになる。

東井 義雄

自然界の人生では『本物』を目指していくことが大切でしょう。『本物』とは普遍性があるものですから続いていきますし『本物』になるためにはどこまでも深く探究を続けていくことです。

また本物はシンプルにしていく方向、削ぎ落としていく方向に探究することで見えてきます。本物へ向けての探究はとても楽しく、不自然なストレスを感じることもありません。

ぜひ自分自身も、夢や自然を知ることなども『本物』を目指していきましょう。全てが『本物』に向けて研ぎ澄まされていけば、人生も充実していきますし、あなたの愛も多くの人に、たくさん届いていくようになりますよ。

(参考: [東井 義雄の名言 \(Yoshio Toui\) - 偉人たちの名言集](#) 2025年12月1日)

教育における「不易なもの」は昔から変わらずにあります。それを私たちは子どもに伝え続けていかなければならないと思います。今月号の特集は、「私の中の不易と流行」です。ぜひご一読ください。(李)

CONTENTS

◇特集「私の中の不易と流行」◇

子どもの力を信じる	加藤英介・・・・・・・・・・2
「流行」の中にも「不易」を、「不易」の中にも「流行」を	吉田雅直・・・・・・・・・・4
私の中の不易と流行	前田昌彦・・・・・・・・・・6
「不易」と「流行」について2年前に考えたこと 今、思うこと	鈴木基久・・・・・・・・・・10
シン・アナログ教育宣言～できた！わかった！つながった！	図書啓展・・・・・・・・・・13

◇連載◇

考える力をつけるための授業の組み立て方②読解力を育てるために必要なこと	荒井賢一・・・・・・・・・・15
社会科（歴史）授業力アップ講座③社会科（歴史学習のねらい）	深澤英雄・・・・・・・・・・17
「先生のための学校」報告 国語科「学力の要＝読解力を育てる」	岡本美穂・・・・・・・・・・19
リレー連載②ICT教育の「揺り戻し」の先頭に	金井敬之・・・・・・・・・・21
局長・常任委員長だより	・・・・・・・・・・23
学力研カレンダー	・・・・・・・・・・24

※岡本先生と久保先生の連載は、都合により休載させていただきます。

子どもの力を信じる

加藤 英介

不易と流行

教員として、13年目を迎える。私の中の不易とは「子どもの力を伸ばす」ことである。流行とは「子どもの力の伸ばし方」である。授業においては、学力研で教えていただいた「読み・書き・計算」「教科書・ノート・板書」は今も大切にしている。その根幹にあるのは子どもたちの思いを大切にするのである。

今年度の実践

「先生のおかげで勉強が楽しくなりました。特に、漢字と計算ができるようになってからテストもできるようになって、ほめられることが増えました。(今までは、結構叱られていました。というより、隠していました)」

これは、教員5年目に担任した6年生Mくんの生活日記である。Mくんは、学年でも指導に困っていた一人である。学力は3年生程度と厳しく、友達とは折り合いをつけることが難しく、会々とケンカとなる、

次の時間の授業は教室を出てしまうという状態である。先生方なら、どうするだろうか。その時の自分は、どうして良いかわからず悩んでいた。そして、先輩やサークルの先生に相談をし、アドバイスをもらった。ダメなことをしている時には毅然と叱る、保護者に現状を伝え、協力してもらう、管理職の先生に助けてもらうなどである。聞いたことはすべて、実践した。しかし、結果は惨敗だった。理由は明らかである。方法や手段だけ取り入れ表面で指導していたからだ。指導の根幹にあるものを知らなければ、思いは伝わらないことを痛感した。

そこで、Mくんの様子をよく観察した。文字を読もうとはするが、読めなくなると諦める。友達と関わりたい気持ちはあるが、自分の思いの伝え方が失ってしまう。大人に対して、どうせ怒られるという感覚で聞いていることなどがわかってきた。

言い換えれば、文字は読めるから漢字がクリアできればよい。友達と関わりたくて

言葉を発しているから相手に伝わる伝え方を伝えるとよい。大人がくるとほめられるという感覚にするとよい。という発想の転換を行い、指導をするようにした。特に意識したのは言葉である。褒める8割、叱る1割、褒める1割と、伝えるときにはハンバーガーのようにして、関わった。「Mさんここまで読めましたね。すごいなあ。先生が同じ立場なら二行で諦めるかも。さすがだなあ。最大の難関は次の一行だね。領域(りょういき)：Mさん読めそう？」とさりげなくMさんがつまづいているところを伝えると同時にプライドを傷つけないように言葉を選んだ。ケンカの際には「今5段階でどれぐらいイライラするの？そっかあそれはそうなるね。最初からケンカしていたの？」とMくんのズレを自分自身で気付けるようにした。このような地道な指導を続けた。

最初こそ抵抗はあったものの「先生、これってなんて読むの？」と聞いてきたり「先生言った通り『ありがとう』って言ったら5回使ったら午前中うまくだきた」と伝えてくれたりした。友達とケンカすることは

あるものの「僕は〇〇だと思っていた」と認めることができるようになった。

どれだけたくさんの方や手段があったとしても、その指導の根底にあるものを理解しようとしなければ子どもを伸ばすことはできない。この経験が、僕自身の不易となった時である。

専科として

今年度は、総合的な学習の専科として中学学年19クラスを担当している。各クラスの様子を見ると、国語や算数では、わからない・やりたくない子がいたり、寝てしまいう子がいたりするのが現状である。その子たちも最初からそうだったわけではないだろう。自由進度学習やICT、タブレットという教師の流行により、この格差は加速したと感じる。不易を疎かにした結果だとも言えるだろう。また、小学校生活を積み重ねる中で、どこかでつまずき、傷つき続けた結果とも考えられる。それでも学校にきている子どもたちがいる。「誰か助けてほしいなあ」という心のサインではないだろうか。ただ、すぐに主要教科の授業力アップや仕組み自体を変えることは難しい。そ

こで、まずは、子どもたちの意欲を引き出し・取り組みたいことを実現できる「総合」からモチベーションを上げていこうと考えた。なるべく多くの子どもたちの思いを生かすため、現在も奮闘している。

具体的には、町の特産物を育てたり、環境や福祉について深めたり、学校をよりよくしたりと学年によってさまざまである。各テーマの中で、やりたいことをやりたいだけ行えるようにしている。例えば三年生では、大治町の特産物である赤しそは、知っているものの育てたことがない子がほとんどであった。やりたいことを聞いていくうちに「育てたい」「給食で広めたい」「地域の人に食べてほしい」などの意見が出てきたため、実現に向けて取り組んでいる。しかしながら、実現するためには学級づくり・授業づくりが必要不可欠である。

実際、あるクラスでは、担任の先生の指導が入りづらい状況となっている。授業開始と同時に戦闘モードになっている。普通なら、厳しく指導するところだが、それをしたら大惨事となることは目に見えている。そこで、「今日の課題はJAの人に教えるも

らった出前授業の内容紹介です。書けた人から終了です。では始めてください。」と指示した。その後「書き方がわからないという正直な人はいませんか。先生と一緒にやりたいと思う人は集まっておいで」と全体に声をかけた。すると、さつきまで戦闘モードだった子が教師机にきたのである。すかさず「みんな正直ですね。正直な〇〇さんはすぐに成長します。すごい。ちなみに、文を勉強する教科は？」とほめながら、国語の教科書を開かせ、教師が黒板にゆっくり例を書きながら写させた。「絶対無理」と言っていた子が20分程度で書き上げた。授業後に、「こそつと呼び、「来なくてもやらなくてもバレないのに、どうして先生のところに来てくれたの？」と聞いた。すると「わかんなかったから。あとやらなきゃなつて思ってたから」と教えてくれた。「すごいなあ。やろうとしただけでなくやり切った。できないことをやろうとしている〇〇さんが考えた給食プロジェクトはきつとうまくいくはずだよ」と言って終えた。その子は次の時間も頑張っていた。

力を信じ続けることが大切である。

「流行」の中にも「不易」を、「不易」の中にも「流行」を

大阪 吉田雅直

私が、どの学年を持っても、学校が変わっても、自信を持って子どもたちの前に立ち、保護者に教育理念を熱く語ることができるのは、私が教育において「不易」だと信じているもののおかげです。それは、「すべての子どもたちに確かな学力をつける」ということです。

学力研に出会い、数々の追実践を通して子どもたちがきらきらと輝く姿を目の当たりにすることで、「学力づくり」こそが、教育における「不易」であると確信することができました。

私が教師になってから十九年の間に、教育現場は大きく変わりました。いまでも続く変化があれば、あとから振り返ると「あれはなんだっただ」と思うような一時的な「流行」もたくさんありました。教育も時代に合わせて変化し続けることは必要だと思えます。しかし、大切なのは一時的な「流行」に振

り回されないことではないでしょうか。

「真面目」な先生ほど、これからは〇〇の時代だから、と上から下りてきた新しい課題に一生懸命取り組んでおられます。固定観念にとらわれず、新しいことに挑戦し、教育に新しい風を取り入れていくことは大切だと思います。しかし、確かな理念や科学的な根拠もないまま、そしてなんの説明もないまま次から次へと下ろされてくる「流行」の波によって、現場はどんどん混乱し、教職員はますます疲弊させられています。

大切なのは、いま目の前の子どもたちにとって絶対に必要であり、最優先すべき「不易」と、教育の本質とは関係のないところから忍び込んできた「流行」とを注意深く見分ける力ではないでしょうか。

私にとっての「不易」とは、「音読」であり、

「計算力」であり、「漢字力」であり、「書く力」であり、「読解力」であり、「友だちと直接意見を交流する力」です。そして、それらの学習活動に「みんなで」取り組み、「凛々しい個別化」と「豊かな交流」で、学力づくりを学級文化に高め、学級づくりにつなげ、自治的な子どもたちを育てることにあると考えています。これは、学年が変わっても、学校や地域が変わっても、時代が変わっても、変わらない私の信念であり、「不易」なのです。

とはいえ、学校は組織であり、チームとして動かなければならないので、「流行」に一切関与しないというわけにはいきません。そんなときには「流行」の中に「不易」につながるものを見つければいいのです。例えば、タブレットも、上手に使える、習熟のための道具になり得ます。自分にとっての「不易」をしっかりと持っていることで、「流行」の中にも、「こは学力づくり」にうまく使えそうだと、「不易」につながる部分を見出し、利用することができるようになるのです。また、逆に、いつもの学力づくりの取り組みに「流行」の要素を少しだけ取り入れることで、「流行」

に積極的に取り組んでいるアピールをすることもできます。例えば、フラッシュカードをスライドショーにするなど、意外と便利だったりします。あまり労力を使いたくない取り組みほど、「やってますー」と一を十くらいに大々的にアピールするのがおすすです。

自分にとつての「不易」を持つことのよさは、新しい取り組みや変化に対しての判断基準を持てるということです。たとえば、「連絡帳をやめて、タブレットでの配信にする」という提案がなされた場合、何もこだわりがなければ、教師も子どもも楽になっていいんじゃないかという発想になると思います。しかし、連絡帳は「情報を正確に伝達する」「トレーニングであり、子どもたちの『学習規律』の高さを保護者に伝えるツールであると確信している教師は、説得力を持って、提案に反論することができるようになるのです。

タブレットによる自由進度学習も進められています。百マス計算の一体感や集中力、昨日の自分に勝った時の達成感や自己肯定感、友だちと答え合わせをすることで生まれる認め合いなど、紙と鉛筆でしか実現でき

ない教育効果を知っているからこそ、価値判断を行い、選択することができなのです。

意見交流もタブレットで行うことが多くなってきましたが、やはり、相手の顔を見て、声を聞いて、直接やり取りすることでしか伝わらない「熱量」があると感じています。

「働き方改革」「教育の効率化」「時間の節約」「児童の負担軽減」という大義名分のもと、子どもたちの「書く力」や「つながる力」保護者とのつながりという教育において最優先されるべき大切なことがどんどん失われていっているのではないのでしょうか。

私が「不易」において大切にしていることは、「不易」の中にも「流行」を取り入れるということ。流行」とは、「変化」であり、目の前の子どもたちの様子や成長、反応に合わせて、「不易」に変化を加えるということです。学力づくりの取り組みは、やればやるほど確信に変わっていく、自分なりの「形」がしっかりとできあがっていきます。しかし、その「形」にこだわりすぎると、目の前の子どもたちが見えなくなってしまうことがあ

るのです。今年の子どもたちは去年の子どもたちとはちがいます。そして、今日の子どもたちもきのうの子どもたちとはちがうのです。積み上げてきた「形」は大切にしながら、ひとりひとりの子どもたちの反応を敏感にキャッチし、「不易」の取り組みにも慎重に、ときに大胆に「変化」を加える。これが「不易」の中の「流行」だと考えています。

例えば、百マス計算がどうしても苦手な子がいたら、マス計算を全て横式に直した「マスなし百マス」にすればいいのです。大切なのは「マス計算に取り組む」ことではなく、「みんなが計算力を高め、自信を育てる」ことであり、そのための手段は子どもたちの実態に合わせて柔軟に変えていけばいいのです。

このように、私は「不易か流行か」ではなく、「不易」の中にも「流行」を取り入れ、「流行」の中にも「不易」を見出すという柔軟な発想が大切だと考えています。そして、その柔軟な発想を支えてくれるのが、私にとっては「すべての子どもたちに確かな学力を」という学力研で学んだ確信の部分なのです。

私の中の不易と流行

伊丹学力研 前田 昌彦

伊丹の仲間にタブレット学習のメリットとデメリットをコメントしてもらいました。それから紹介しますね。

前田 豊中の現場をみていると文字を書くことが減っているようです。漢字がなかなか覚えられていません。その原因にタブレットでのドリル学習の多さが挙げられます。そうなるとう鉛筆の持ち方がどうなろうと気にしない。姿勢が崩れていても、机の上に水筒や筆箱、色鉛筆のケースがでいていたらその隙間で文字を書くことが当たり前になっていきます。図工で4年に彫刻刀の使い方を指導する時も机上の整理をまず声かけしてから始めます。そして彫刻刀を使う場所も持っている手の胸の前で作業をすることを目指す。そして脇があいていると彫刻刀の押す向きが真つすぐではなく左上（右利き）に進むため左指に彫刻刀が当たる（出血）するので気をつけるようにしつつこく注意していました。残念ながら先週の月曜日の5、6時間目に指を怪我した子が3人も出てしまいました。度怪我をした

子はもうしないと思いますが痛い目にあわせてしまいました。

何事も基礎基本はしっかりと身に付けさせるのが義務教育の務めだと思います。こんなことを思いつつ授業をしています。

城所先生 写真や図でまとめたり、プレゼンで発表したりする場面では、タブレットは使えます！国語の授業で使うことが多いです。

共同編集でプレゼンを作成したり、アナログではできない良さもありますね。それ以外はおもちゃです。尼崎には、各クラスのタブレット保管庫に入れて充電し、授業で使う時だけ取り出していました！しかも

佐々木先生 宝塚は学年に1つしか保管庫がないので、1週間に1回は充電のため持ち帰ります。たくさん学級が使うとインターネットがよく止まります。環境が良くありません。1年生の物の名前のお買い物ごっこをタブレットでしたのは面白いなと思いました。算数の図形をタブレットでさせようとした時はダメだなと思ったので、色板を学校置きで買ってもらいそ

れを使って指導してもらいました。

前田 西宮甲陽園小学校の2年ではできるだけタブレットを使わないで授業をしていました。デメリットが多いことを教職員で共通理解しているのでしょね。

このようなコメントが各市から届きました。今のタブレット学習が続くと学力低下は加速度的に起こると思います。そうならないためには「書くことが苦にならない子どもたち」にしないかならないと思うのです。そこで私がこだわってきた正しいお箸鉛筆の持ち方についてどのようにしてきたかをお伝えします。

◆挨拶◆

前田先生はどんな人？

■経歴・実績・現在の状況・目標に

していること

私の学校生活（小学校から大学まで）で一番のコンプレックスは、なんといっても悪筆だったことです。きれいな文字を書くとうとすると中指にタコができるほど、指が痛くなる持ち方でした。それで、2年からは力をただ入れないで中指のたこが痛くな

らないようにふにやふにやな持ち方で書くことをすると、暗記力に頼り、できるだけ文字を書かないようにしました。この勉強方法は中学までは通用しました。

しかし、高校になると書いて覚えなくてはわからないことが多くなり、成績は落ちていったのを覚えています。

一浪をして大学に入ると少しはましにノートを取るようになりましたが、相変わらずの悪筆でした。卒論を原稿用紙130枚ほど手書きしましたが、恥ずかしいことです。清書するのに、友人2人の力を借りて出したぐらいです。

伊丹市の小学校教師になり、一番時間がかかったのはテスト問題作りでした。業者テストは一切使わない市でしたので、それはそれは苦戦しました。

勤めて3年後の春に教育講座に参加をしたときに講師の先生が指にはめている鉛筆の持ち方補助具が目に入ったのです。あとで聞くと、ユビックスという道具で、さっそく発明者の高嶋諭先生へ電話をして会いに行きました。これが私の師匠との出会いです。

それが40年前のことです。それから担任する子どもたちにユビックスを使つて鉛

筆の持ち方を指導するようになってきました。

また、14年間、高嶋先生のアシスタントとして全国各地で鉛筆の持ち方指導を行いました。

2014年に高嶋先生が亡くなられた後、後を引継ぎ正しいスプーン、お箸、鉛筆の持ち方普及に勤めています。その間子どもたち2000人あまりと教師、親御さん方にも親子教室で伝えてきました。

(福岡県田川市、岡山県倉敷市、滋賀県竜王町、丹波篠山市、伊丹市、宝塚市、摂津市、京田辺市、八幡市、近江八幡市、守山市、倉敷市、豊中市、西宮市の小学校、福島市の福島大学付属幼稚園)にて講座も行ってきました。

■目的

何故正しい持ち方が必要なのか？

私の経歴しかり、鉛筆の持ち方が良くない子ども、大人もよく見かけます。現在はいより一層悪くなっています。でもそのことを気にかけている大人も減っています。今教えている子どもたちも長さが2センチにも満たない鉛筆を平気で使ったり、ぐっと鉛筆を握り顔を机に近づけて文字を書いています。

昔(80歳代の方たち)なら、学校で教えてもらったり、家でしつつけとして教わったりしていたのが、今は皆無になっています。でも、親御さんで子どもの鉛筆の持ち方や姿勢が気になっている方もおられます。姿勢が悪いと視力低下、内臓の発達が遅れる、学習の構えがなかなかできない(学習に対する持続力と集中力ができない)ことが起きます。たかが鉛筆、されど鉛筆なのです。

学習は何といっても書く力が要求されます。それには指先や手、肩が疲れない持ち方が必要です。

■ゴール・目標はどこか

従つて、中学、高校と学年が進んでいって、毎日3時間自主学習ができる軽くて疲れない持ち方を会得してもらいます。これができれば塾も必要でなくなります。

実際に教える子で高3の時、受験勉強を1日10時間したと話してくれました。疲れるとユビックスをはめてしていたそうです。

■1回では終われない、何回も受ける必要がある

担任をしていた時は一年中声をかけていました。理由はそう簡単には一度癖がつ

いた持ち方は直らないからです。だから最低でもひと月間（30日）はかかります。持ち方補助具の力を借りて行えば上達は早いです。

■指導の流れの説明

持ち方はスプーン、お箸、鉛筆の順番に指導をします。それは鉛筆を正しく持つには指三本で持つスプーン、指4本で持つお箸、そして5本の指全てを使って動かす鉛筆という指導をふまえると案外楽にできるようになります。今、不自然な鉛筆の持ち方をしている方は、さかのぼって持ち方を知ることから自分がどの指に力が入っているのか、どの指を使っていないのかがわかります。その間にひらがなを練習します。文字の中で一番難しいのが平仮名なので理由は曲線が非常に多いからです。しなやかに指を動かせないと手本通りの文字はかけません。それから筆記体の数字を学びます。滑らかに数字を書くには斜め70度の角度で数字を書くのと速くきれいに書けます。

■終わりのあいさつ

生徒から感想をもらおう
今後も指導を受けたかったら連絡して、
という話をする

★追加

- ・指導日の事前に、必ず指導者2人で打ち合わせをする。
- ・指導の途中で1分でもいいから、アシスタントの指導の進捗をチェックし、アドバイスをするタイミングを必ず作ります。
- ・終わった後に、生徒児童保護者教諭から感想をもらう時間を設けます。
- ・プリントの中に、前田の連絡先を追記する

持ち方伝道師まえちゃんねる

と言うユーチューブも視聴回数は15万回（2020年5月から）を超えました。

今だけ勉強するだけでなく、中学校も高校もこの先も勉強していくことが必要。自分がやりたいことを見つけて叶えるために必要なのは「書く力」です。将来を見通すと、必ず必要となる。書く力を支えるのは正しい鉛筆の持ち方です。書く力が自分の基礎になる。何のために正しい持ち方をするのか？が伝わっていないと指導の意味がない。鉛筆の正しい持ち方ができると板書も早くなる、書く力がつく。話を聞きながら書くことができ、高レベルの授業にもついていける。夢をかなえるには、何時間

勉強する必要がある。けれど以前まで学力が弱かったのに塾に通わずに自主勉強して国立大学に行き、有名企業にいくこともある。

宝塚の小学1年生の指導 3月6日
1回目1学期にひらがな、2回目2学期に漢字、次3月6日に3回目
今担当の人に、教材を何にするかを決めてもらうように返事待ち

【提案】

担当の人に、生徒に下記項目を聞いてもらい、その内容によつて3回目の授業を決めるのも1つの手ではないか。

・ユビックスを持っていない生徒もいるから、興味があったり、ほしい場合は事前に先生にきいてもらってもいいし、授業中でもいつでも渡せることを話してほしい

・2回の指導を受ける前と受けた後で、何か変わったことはあるかない場合は、正しい持ち方がなぜ必要か理解していない場合がある。
これからどんな持ち方になりたいかも意識を持ってもらいたい。

「不易」と「流行」について2年前に考えたこと　今、思うこと

鈴木基久（静岡県）

2年前にも同じ題で広場の原稿を書いていた。2年前に書いたことを踏まえつつ、今思うことを記す。

へ2年前　2023年12月号

まずは、「流行」について考えた。

「流行」と言われると、様々なキーワードが浮かんでくる。「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」「令和の日本型学校教育」などである。そういえば「アクティブラーニング」という言葉もあったが、それは使われなくなりその後に表示されたワードに取って代わられている。

新しいワードが出てくるたびに、それはどんな意味で何を目指しているのかが話題となり、新しいワードが躍った書籍がたくさん売り出されたり、研修会が行われたりする。最

近は、新しいワードが次々に出され、それらについて学ぼうとすればするほど、新しいワードに振り回されているように感じている人も多いのではないかと思う。

なぜ、次々に新しいワードが出されるのだろうか。教育行政に携わっている側から考えると分かりやすい例えば、「指導要領が新しくなる」ときこれからの学校や授業の目指すものはこれですよ。」と示すには、新しいキーワードが必要だからである。新しいワードは、これまで使われてこなかったワードだから多くの人は知らないわけで、みんながそれはどんな意味で何を目指すのかを知りたいと思うきっかけになるのである。

次々に出される新しいワードに対する現場教職員の態度は、大きく2

種類に分かれるだろう。

一つ目は、新しいワードについて理解しようと思い、書籍を購入して読んだり、研究会に参加したりする熱心で真面目な人たち。

二つ目は、次々に新しいことを言われても、日々の業務に追われていて、それらを学ぶための時間も気力もないという人たち。

日々の忙しさから、新しいことを言われても、そんなことを学ぶ時間がないという人たちの気持ちを、私は十分に理解できる。今の学校にはあきらめなくなるほどに次々と新しいことが押し寄せているからである。でも、学ぶことをあきらめたままではよいとは思わない。なぜなら、新しい情報を入れないで教員の仕事を続けるのは、時代や子どもが変化しているのにずっと同じやり方を続けることになり、とても危険だからだ。この状態が続くことは、教員にも子どもにも学校にも好ましくない。

一方で新しいことについて学ぶ熱

心で真面目な人にも、注意が必要だ
と思っっている。それは、新しいワー
ドを鵜呑みにしてはいないかという
ことだ。キーワードには、簡単に説
明できない理論や構想を一言で代替
できる便利さがある。だからキーワ
ードを使っていれば、それらしく聞
こえるし、分かったような気になる
のである。

本当に大切なのは、簡単に説明で
きない理論や構想を、自分のこれま
での経験や実践に照らし合わせて取
り入れるかどうかを考えることだ。
鵜呑みではなく、しっかり噛み砕い
て自分の考えとして吸収できるかが
重要だ。新しい考えの中でも、賛同
できるものは取り入れ、疑問を感じ
るところはとりあえず保留としてお
けばよいと思う。学び続けていれば、
保留としていたことの答えが見つか
ったり、複数のことが繋がって理解
できたりすることがあると思う。

次に「不易」について考えた。「不
易」というのは、「人間とは本質的に

こういうものだ。」というように時代
によって変わらないものだと思う。

最近、成田奈緒子著『「発達障害」
と間違われる子どもたち』を読んだ。
発達障害とされる子ども数が13
年間で10倍になっているが、その
中には、医学的には診断がつかない
のに発達障害のような行動が見られ
る「発達障害もどき」の子どもが増
えているという。そして「発達障害
もどき」を改善するには「子どもを
立派な原始人にする」と目指す
べきとあった。具体的には「早寝、
早起き、朝ごはん」のような生活の
改善と親子のコミュニケーションが
示されていた。

本のタイトルに惹かれて読んだ本
であったが、結局は「早寝、早起き、
朝ごはん」という20年くらい前に
流行したことがやはり大切だったの
を再確認することとなった。つまり、
「流行」していたが最近はまだ言
われなくなった「早寝、早起き、朝
ごはん」は「不易」なことだったん

だと今の私は思っている。

発達障害に対する支援は年々充実
しているにも関わらず、個別の支援
が必要な児童がそれ以上に多くなり、
学校運営の課題となっている学校現
場は多い。だからこそ、タブレット
教育などではなく「早寝、早起き、
朝ごはん」という人間にとって大切
なことにもう一度立ち返る必要があ
ると思う。家庭生活に立ち入らない
ということと20年前の「流行」は
終わってしまったのかもしれないが、
ここはあえて家庭との連携を図るべ
きだと思う。

教育の話題は、何かと二項対立で
捉えがちである。「不易」と「流行」
を二項対立でとらえるのではなく、
本質的な価値はどこにあるのかとい
う視点で様々なことを捉えていくこ
とが一番大切なのではないかと、私
は思っている。

〈2025年 今、思うこと〉

不易（時代を超えて変わらない本
質）だと思うこと

①学習を自分で進めるためには、基礎基本の定着が欠かせない。

既習事項が身に付いていなければ、新しい学習内容を理解するのは難しい。学習に苦手意識をもっている子は、分らない、できない経験を重ねて学習意欲を失っていることが多い。できた、分かったという経験が学習意欲を高めてくれる。そのため、さかのぼり指導が重要である。

さかのぼり指導というのは、学年をさかのぼって行う復習である。例えば、3年生のわり算の学習に入る前に、2年生のかけ算九九ができているか確かめ、穴あき九九の練習をしておくのである。

まず計算、読み上げ計算、つぶやき漢字、リズム漢字、読み上げ漢字など、基礎基本の定着を図る実践が、学力研には豊富にある。学習を自分で進められる子を育てるために、基礎基本の定着を図る取り組みを、私は継続している。

②目の前の子どもの実態に合わせた

教育がなされなければならない。

教員の働き方改革に絡めての動きなのか分らないが、家庭学習の内容や方法についても多様化しているようである。家庭学習を子どもに任せる方法も、基礎基本や学び方が身に付いた子どもにはよいかもしれないが、そうでない子どもにとっては学習からの逃避を促していることにはかならない。個々の子どもの実態が分らない教育委員会が「自由進捗学習の推進」を推し進めたとしても上手いかないところが出てくるのは当然である。つまり、目の前の子どもの実態を踏まえて、現場の教師が何をするのが重要なのである。

③基本的生活習慣の確立が重要

人間とはどんな生き物なのかを知ると、生き物としての人間の性質は簡単に変わらないことが良く分かる。睡眠不足では集中できないし、朝ごはん抜きでは元氣が出ない。多すぎるスクリーンタイムも問題であることが報告されている。私は年度初め

の参観授業で、基本的生活習慣についての授業をするようにしている。

ゲームや動画視聴についても取り上げて、親子で生活習慣を見直すきっかけにもらうことをねらっている。毎年、保護者に喜ばれる参観授業になっている。

④教員の使命感

先日、愛知教育大学名誉教授の水廣先生のオンライン研修に参加した。そこで、教員にとって大切なことは何かを話し合った。子どもが「できた。分かった。」と喜ぶ姿が見たいという教員の思い、使命感が大切だとほとんどの参加者が考えていた。使命感があるからこそ、理想を追求し学び続けられるのだと思う。

流行に乗るのは簡単である。流行に逆らって大切なことを守り通すには、勇気と覚悟がいる。目の前の子どもにとって、本当に大切なことは何かを考え、判断しようとする姿勢が教師にとって何より重要だと思う。

シン・アナログ教育宣言 できた！わかった！つながった！

図書 啓展 (ずしよ ひろのぶ) 大阪みなみ学力研

ワールドシリーズ決勝戦。

ドジャースの山本由伸投手がリリーフで前日に続いて連投し、ブルージェイズを抑えてドジャースが球団初の世界一連覇を達成しました。

山本投手の満面の笑顔、山本投手に駆け寄る選手たち。あのシーンが今でも忘れられません。

その山本投手が、ベンチでいつもノートを開いて気付きをメモしていることを知りました。タブレットが当たり前の時代に、手書きを続ける山本投手。

なぜなの？

紙に手を使って書くことで脳に定着するから、より記憶に残るからなのです。

成功は運ではなく小さな積み重ねから生まれます。山本選手は、世界一の投手になるべくしてなったのだと言えるでしょう。

紙と手書きが忘れにくい

言語脳科学研究者、酒井邦嘉氏（東京大

学）は述べています。

「紙への手書きの方が、紙と文字の位置関係などの手がかりが豊富な分、脳に深く入りやすくなるため、デジタル機器で入力したときよりも忘れにくいですし、手書きしたときに理解した内容を元に新しい考えやアイデアを練るなど、創造的な発想も浮かびやすいのです。」

「デジタル機器による効率化は、脳への情報入力希薄にするため、かえって脳を働かせなくしてしまいます。」

(手書きプラス)

「ペンを持って書くという行為は書きながら考え、考えながら書くという、同時並行のマルチタスクです。ところが、キーボードでは早くキーを打てる分、正確なタイピングに専念する方へと意識が傾きます。それは書くことに集中しているように見えて、実は同時に考えるという人

間の脳に備わる創造性に関わる能力、マルチタスクを封印してしまっているのです。」

(人間と教育)

ノルウェー科学技術大学のミリア教授は、研究結果から次のように言います。

「手書きで文字を学ぶには時間と労力がかかりますが、脳の成長には苦労が必要です。文字を覚えるには手書きが一番です。指の細かな運動や感覚を必要とすることで、脳を学習状態に開いておくことができます。キーボードやタブレットでは、脳の活動が最小化され、学習効果が高まりません。」

(※)

また、京都大学の研究チームは、漢字の手書き習慣が、高度な言語能力の発達と関連するということを突き止めました。

「小学校から高校までの間に漢字の手書きを十分に習得することが、その後の高度な言語能力の発達にとって重要であることを示唆するものであり、早期のデジタルデバイスの利用が漢字の手書き習得に抑制的な影響を及ぼした場合、その影響は手書きを必要としないさまざまな言語能力・認知の発達にまで及ぶ可能性がある。」

(大塚貞夫助教、村井俊哉教授ら)(※)
と警鐘を鳴らしています。

読解力においても紙は優位にたちます。
ノルウェーの10歳の子どもの調査では、
読解力テストを紙版とデジタルテストの2
つのバージョンで受けさせて比較を行いました。
その結果、平均点だけでなく、読解
の低・中・高のどのレベルにおいてもデジ
タルテストよりも紙の方が高くなり、より
良く理解できたということです。(※)

このように、デジタルよりもアナログの
方が記憶と思考の学習にとって優位である
ことが科学的に証明されているのです。

世界の流れはアナログ回帰

今、日本よりも先進的に教育のデジタル
化を進めてきた諸外国では、アナログに回
帰する動きが広がっています。

なぜなのでしょう？

実は、国際学習到達度調査「PISA」にお
ける自国の学力低下の結果や「読み書き計
算能力、運動能力、人間関係能力」の深刻
な低下に直面し、デジタル教育の見直しを
余儀なくされたからです。

2010年に一人一台端末を始めたスウ
エーデンでは、見直しをして教育法も改正
教科書のデジタル化を白紙に戻しました。
ノルウェーでも同様に政府が2023年
にデジタル化の見直しを表明し、紙の教科
書に予算を充てています。

フィンランドでは、デジタル教材を紙の
教科書に戻し、基礎教育の最低時間数を週
3時間増やすカリキュラムに改正。

ニュージーランドではデジタル化の弊害
で深刻な基礎学力低下に直面し、2024
年度の新学期から読み、書き、算数の学習
をそれぞれ毎日1時間受けるというカリキ
ュラム改正を実施。

オランダ、アメリカなどでも同様の動き
になってきています。

同時に、デジタル化による教師の教える
能力の低下も各国で問題視されています。

一方、PISAにおいてトップの成績を
修めるシンガポールでは、小学校では一人
一台端末は導入していないことは象徴的で
しょう。2021年から中学校でのみ導入
しており、デジタルとアナログを融合させ
たアプローチをとっています。(※※)

「シン・アナログ教育宣言」

今、書くことを嫌がる子どもが増えてい
ませんか？ ノートを使わなかったために位取
りのできない子が増えていませんか？
「毎日タブレットを使え」という圧力がか
かっていますか？ 使うかどうかは教師
の権限に属するのですよ！

今夏、小学校の国語と算数の学力低下が
報道されました。(2024年経年変化分析調査)

今こそ、すべての子どもに確かな学力を
育てるために宣言します。

・小学校1年から3年までは徹底したアナ
ログ教育を進めよう。

・4年生からデジタル教育も一部取り入れ
るが、慎重に。

・どの学年でも教科書とノート、板書が大
切にし、学び合う授業づくりをめざそう。

・「できたーわかったーつながったー」

と、どの子も実感する教育を。

参考文献(※) 教育の未来を拓く、学校でのICT

「活用術」(※※) 子どもの成長・発達とICT

見極める眼を 大阪教育文化センター編

読解力を育てるために必要なこと

「読解力」とは何か

読解力について考えるために、次の二冊の本を読んだ。

- ①犬塚美輪『読めば分かるは当たり前？～読解力の認知心理学～』(2025.1 筑摩書房)
- ②犬塚美輪『14歳からの読解力教室～生きる力を身につける～』(2020.3 笠間書院)

①の本に次の文章が載っている。

騒がしいテレビを消すと、急に深夜の静けさが際立ってくるようだった。玄関を出ると息が白かった。「寒いなあ」とつぶやくと、それに応えるように、近くのお寺の鐘の音が響いてきた。煩惱の数だけ鳴るらしい。

この文章を読み解く(読解)するために、どんな力を子どもたちに育てないといけない

いだろうか。

- ・ひらがなやカタカナや漢字が読めないといけない。(読字力)
- ・文字の並びを言葉として認識しなければいけない。(例：騒がしい・テレビ…)
- ・言葉の意味を知らないといけない。
- ・文章に書かれたことから書かれてないことを類推できないといけない。

例えば、煩惱の数だけ鳴る寺の鐘から、大晦日(12月31日の夜)であることが分からねければ、読解できているとはいえない。

読解の第一目的地

①の本に、右下のイラストが載っている。犬塚さんは、読解の第一目的地は、「表彰構築」だと書いている。

物語の深い読み取りや説明文の批判的読

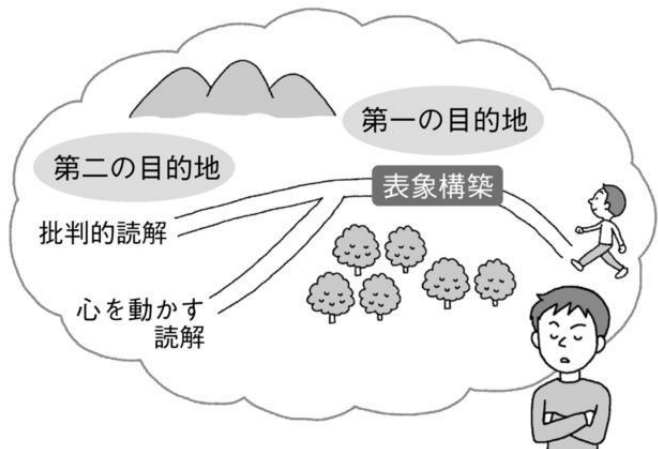


図1 読解力は多様な概念

解以前に、まずは、表象的に読めてないと、どうしようもない。

私の感覚としては、低・中学年は、表象構築までで充分だと考える。

たくさんさんの言葉や意味を覚え、教科書をすらすら読めるようになり、年中行事を自分や友だちの体験を元に知っていく。

自ら学ぶ、とか、課題解決学習とか、それは基本ができてからの話だ。

語彙と記憶の関係

①の本にある親子の会話がある。

母「サラダに使いたいから、アレ買ってきてほしい、アレ……ええと、名前が出てこないわ。果物で……」

アレとは、何でだろうか。

アレが何かを考えるためには、果物にはどんなものがあるか、さらに、サラダに使う果物はその中のどれなのかを思い出し、考える必要が出てくる。

子「サラダに果物入れるの？ いやだなあ。そういうの、好きじゃないよ」

母「いや、あなたも好きなサラダだよ。ええとなんだっけ、緑で……」

自分の好きなサラダで、緑の色の果物と限定されていく。

子「緑の果物？ カボス？」

母「違う違う、もっと大きいし酸っぱくない、こってりしてて……」

さらに、大きくて酸っぱくなくて、こってりしている。もう分かるだろうか。

子「もしかしてアボカド？ 果物なんて言うから分からなかったよ」

母「そうそう、アボカド！ アボカドは果物でしょう？ 木になるもの」

ちなみに、私自身はアボカドが分からない。名前は知っているが、食べた覚えもないので、酸っぱいとか、こってりしていることも分からないのである。

先ほどの親子の会話で、二人とも「アボカド」の名をなかなか思い出せなかった。

「アボカド」を知らないわけではない。記憶の中に「アボカド」

はあるけれど、それを引き出すことができないのである。

長期記憶の中の知識は、上の



図3 知識が引き出しだとすると……？

ようにタンスのような引き出しの中に入っていると、言われている。

記憶にあっても、どの引き出しに入っているかが分からなくて、思い出せないというイメージである。

最近では、引き出しではなく、左のようなネットワークでつながっているという。

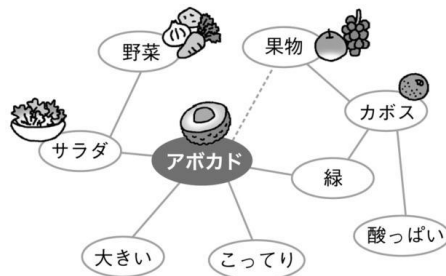


図4 知識のネットワーク（点線は母のネットワークではつながっていたけれど、子のネットワークではつながっていないところ）

今回の会話の場合、果物とアボカドのネットワークがつながっていないために、子の方には思い出せなかったのだ。

たくさん

の語彙に触れさせ、いろんなことを覚えさせるとともに、その語彙にいろんなつながりを与えていくことも大切なわけである。

読解力を育てる方法を詳しく知りたい方は、大塚さんの本を読むことをお勧めする。

社会科（歴史学習のねらい）

学力研常任委員 深沢 英雄

一、歴史学習のたねをまぐぐ小学校歴史教育のねらい

小学校は、歴史学習のはじまりです。小学校、中学校、高校、そして大人になっても繰り返し学ぶものです。小学校で、一挙に日本の歴史を基本的に教え込むとはみなさん思っていないと思います。

小学校は歴史教育のスタートですから、植物を育てるのと同じで、まず種をまけばいいのです。

種は、小さいけれどその中には、大きな可能性を秘めています。種は芽や根をのばしていきまます。芽をのばすのは、暖かい火の光と水、肥料です。焦らず弛まず関わっていかないといけないのだと思います。

私は、歴史教育のねらいとして4点あると考えています。

第一点は、歴史学習を「おもしろい」と思わせることです。歴史が嫌いという大人

の方は「歴史は、年代や人物名や事件を覚えるのが嫌だ」と言われます。基本的な知識はもちろん重要ですが、まずは、興味関心を持つことです。「へー。そんなことがあったのか。おもしろいな、もっと知りたい。」と子どもが思う授業をめざしたいものです。知りたい、分かりたいという知的エネルギーを豊かにふくらませていくことが大切だと感じます。そのためには、教材研究をしっかりとし、子どもたちの知的好奇心を揺さぶる授業を目指したいものです。

第二点は、「なぜ、どうして、はてな？」という疑問、「問い」を持つことで、考え方がしだいに身についてきます。人間の考え方や行動には意味があります。人間や社会を固定的にみるのではなく、変化発展するものとして見る、ものの見方を育てることにあります。また、歴史の事件や事

象がばらばらにあるのではなく、つながっているということも見えてきます。

歴史の出来事やその中で生き抜いていた人間から多くの教訓を得ることもできます。ドラマチックな歴史の世界にわけいることで、奥行きのある人間が育つことを期待したいのです。

第三点は、歴史の学び方です。歴史の学習意欲があってもどう学んでいけばいいのかが分からなければ、伸びる力が止まってしまうです。絵図・本などの資料、インターネット情報、現地に行く、博物館の学芸員などの専門家の話を聞くなど、どう読みどう調べ、どうまとめるかという歴史の学び方を学ぶことです。資料活用能力、資料をもとに論理立てて歴史を追求する力です。

第四点は、歴史の基礎的知識の習得をすることです。社会科での反復習熟の必要性です。社会科は「暗記教科」だと言われます。一方で、社会科は「考える教科」です。考える教科としても、覚えるための反復習熟は必要です。基礎的知識をきちんと身につけることによって、人類が積み上げた文

化をきちんと継承することです。単純な反復訓練的な学習方法とはってはならないと考えます。

私の実践と学力研の実践について紹介します。

日本の歴史の年表を教室にはり、学習ごとに時代名を覚えて行きました。各時代が古い順にいえること。時代の区切りや時代を把握するのに重要だと考える年代をいくつか覚えるようにしました。小学生ですから、多くは要求しません。大学受験で、ゴロ合わせて年代を覚えましたが、その中のほんの一部を紹介します。例えば、一六〇〇年、関ヶ原の戦い。

大達先生が作成された歴史カルタで教科書に出ている人物名を楽しみながら覚えていきました。

社会のテストの前に、私は、教科書クイズと称して、教科書の見開きの中から問題づくりをさせて班の中や班同士での問題の出し合いをしました。久保氏の実践は教科書から、見開きのノートに左右に問題と答えを書いてテスト勉強をしていました。発想は同じかなと思っています。

落ち研時代の実践では、教科書を中心とした文章から穴あき問題で作成してプリントなどの実践もありました。歴史上の人物の概略の説明の穴あきプリントもありました。

2点目の「疑問を持つ」3点目の「調べるまたは説明をきく、4点目の「覚える」というプロセスを「疑問をもつ」↓「調べまたは説明をきく」↓覚えるという一方通行に考える向きがありますが、もっと多様なルートで認識は発展すると思います。

まずは、覚えることで、疑問をもつことにいったり、調べたり聞くことで、疑問が沸いたりすることもあるのです。覚えることに対するマイナスの捉え方でなくもっと広く、柔軟にしていきたいものです。

二、「教える授業」と「学ぶ授業」

日本文教出版の指導書では6年生社会科（全一〇五時間）のうち、日本のあゆみは七十三時間。

「教える授業」と「学ぶ授業」の統一が大事だと考えています。教師が一方的に教

科書にのっている内容・知識を伝えるのが「教える授業」ではありません。だからといって、今はやりの学習法のように、教科書を自分の力で進めることが「学ぶ授業」だという単純なものでもありません。

教科書の記述は、「てにをは」に至るまで吟味され、簡単な記述の中にも多くの思いが込められています。字数が極端に制限されているので、微妙な表現の差が子どもには分かりません。難しい言葉ばかりで関心を持つことができません。塾に行っている子は教科書に書かれている記述を知識としては知っているだけです。教材研究を積んだ教師が、教科書の中にある文章だけでなく絵図や写真・グラフから「問い」を見つけ出し、疑問や指示の形をとって子どもに投げかけることで、すべての子どもに興味を持たせるところからスタートさせます。塾は、教科書の絵図や写真の読み取りなどはしません。文字情報からだけだと、読解力が前提になっているからハードルが高いのです。導入のところから、「教えること」と「学ぶこと」を統一して進めていきたいです。

19期 先生のための学校

先生のための学校 国語科「学力の要―読解力を育てる」

事務局長 岡本 美穂

講演1 荒井先生



この本の紹介文には、「私達が文章を読むとき、内容を理解するだけでなく、感動したり、『それは違つて』と

思ったりします。こういった心の動きは、どのように起きているのでしょうか。

認知心理学の観点から、読解の複雑なプロセスを説明し、どうすればよりよく読むことができるのかを考えます。読解力は一朝一夕で身につくものではなく、絶えず鍛えていかなくてはならないものです。まずは、自分の読解力の現状や、自分が望んでいるような『読解力がある状態』にどうやってたどり着けるのか、その道筋を考えます。そして、自分の読解のクセやつまずきを知って、読解力を高めるためにもっともよい練習方法は何か選べるようになる事が重要です。この本を通して、皆さん自身で練習方法を見つけたら、練習方法を編み出すことができるようになってほしいと思います。」

この本をもとに「読解力」とは何なのか？

考える機会を最初に持っていただきました。

読解力のためには、まずは「スラスラ音読」が欠かせません。小学校では、まず読む慣れること、そこを大事に取り組み、批判的読解につなげていくことの必要性を改めて考えることができました。具体的な実践として、

1. 短文教材で授業する。
 2. 授業で語彙を増やす
 3. 接続語を理解する
 4. だまされない読み方を行う
 5. 言葉の豊かさに気付く
- など教えていただきました。

■参加者のご感想

・短文教材で教えるというのがとても興味深かったです。たった一文でいろんなことを考えられるのがおもしろかったです。「□ん□ん」「□み」の□に入る言葉を考えるのがとても楽しかったです。子どもにもやってみたいです。

・読解に必要な知識をつけることで読みが豊かになるということが、自分の中でぬけていた。接続語や「は」「を」「に」などたった一字の中にも意味があり、全くちがう文章

になるといふことを私自身がもつと大切に伝えていかないといけないと思った。

■講演2 久保先生

新刊の原稿より、読解力とは何なのか、深めることができました。国語がおもしろくない、という子どもが高学年で増えるのはなぜなのか、それは、テストで百点を取ることができないからだと最初に久保先生は主張されていました。また、逐語的読解についてなかなか深く考えることができませんでした。私も20年近く、「逐語的読解」という言葉は聞いて理解しているつもりでしたが、トレーニング、訓練で終わらないためにどうするべきなのか、再度考えました。逐語的読解を通して、聞かれた通りに答えることを目指します。そして、授業では、自分の言葉で、筆者の言っていることを言い換える取り組みを旺盛に行う。それを書かせ、読ませ、友達の言い換えもうんと聞かせながら形を整えていく。

追実践を通して、久保先生が伝えてくださったことを理解していきたいとも思いました。

■参加者の感想

・読解力よりも短期記憶が大切というスタートから、きたえるためのヒントをもらいました。「発問板書ノート指導」「給食等の口頭試問」改めて取り組みたいなあと思いました。特に社会の全文を写す、満点の取り組みは再度挑戦していきたいと思います。
・要点を書く前にたくさん話すというのは、大切だと思いました。要点をテクニクのように書くかと思っても、筋の通っていない文になってしまいますし、自分の言葉で書けるようになると、理解が深まるなど思い、やってみたいです。

■討議より

心に残ったことをいくつか紹介します。
・逐語的読解で終わると荒れてしまう。ワクワク感をどう生み出すのか？一斉授業の良さは、自分が当事者のように脳が動くという、雰囲気づくりが大事。一人に言っているのに、みんなに問われていると思う感覚を大事にしたい。

・タブレットで共有される＝晒される感覚子どもにとって、陰に隠れたいこともある

のではないか。一斉授業は癒やしであるべき。

■何でも相談会より感想

今回、宮川先生には「叱り方」と「クレーム対応」についてお話いただきました。そこから、「教諭」とは何なのか、ということについても考える機会をもつことができました。教諭は、教え諭すのです。「その気持ちわかるわ」と共通的理解を今こそ大事にして生きたいなと思います。

・宮川先生の、共通的理解と自分で解決できる視点、道筋を与えるという「諭す」技、しました。なかなかできないことですが、頑張りたいと思います。クレーム対策もよかったです。元気ができました。

・宮川先生のお話の中の、怒り方がグサッと刺さりました。私も余裕と時間があるときは、共感を意識してできていると思っけど、ないときはできていないので、常にできるように意識します。

・叱り方って大切ですよね。通じにくい子もいて、日々勉強だなーと思っています。クレーム対策、とても納得できます。

リレー連載②「来年度の全国フォーラム講演者新井紀子氏について」

ICT教育の「揺り戻し」の先頭に

金井 敬之

いてもたってもいられない

来年の夏の全国フォーラムの記念講演者が新井紀子氏（国立情報学研究所社会共有知研究センター長・教授）に決定した。新井氏は「A・I・S教科書が読めない子どもたち」（東洋（経済新報社・2019年ビジネス書大賞）と「シン読解力」（東洋経済新報社2025年）を合わせて48万部のベストセラーの著者であり、A・I研究の第一人者である。現状では学力研にとって、最高の講師であると思う。

全国フォーラムと同時期に国際会議を控えている多忙な新井氏が関西の民間サークルの集会に来ていただけるのは、子どもたちの学力低下を危惧する思いの強さだと思う。「次の指導要領に向けて、一人一台タブレット、果ては生成A・I活用までが頻繁に話題に上るようになり、21年から24年までの3年間で、おそらくタブレットを原因とした学力

低下が起きたにもかかわらず、生成A・Iまで解禁したら、どれだけ日本の学力が下がってしまうかと考えると、いてもたってもいられず、『アンプラグド』での実践を続けていらつしやる皆様と交流をさせていただきたかった」と思っておられることを新井氏の交渉担当の深澤先生からお聞きした。

※アンプラグド：プラグ（電源・電力）を用いない音楽演奏の意味から派生してパソコンやタブレットではなく紙と鉛筆で学習するという意味合いで新井氏は使っている

新井氏と学力研の主張

新井氏はシン読解力（教科書を読む解く力のこと。従来の読解力と区別するためにシンをつけた）をつけるには次のことが必要であるという。

それは「音読と視写」、「学習言語を身につけること」、そしてその土台としての「語彙力

と生活経験」だという。

この主張は、学力研が結成当初から実践してきたことと見事に一致する。まさに、岸本裕史先生の「読む力は学力の上限を規定し、書く力は学力の下限を規定する」と「見えない学力」である。

多くの先生とつながる

来年の夏の集会では多くの参加者と新井氏の話聞きたいと思う。今から楽しみでならない。ただ、新井氏の知名度で参加者が増えることも、それはそれでありがたいが、学力研としては（というか自分のイメージであるが）「今のICT教育はちよつとやりすぎじゃないか？」「小学校では、やつぱり紙と鉛筆でしよ？」「板書も連絡帳も写さない教育っておかしい？」「かけ算九九や漢字の習得ができていない子が増えてきた」「学力の二極分化がすすんでいる。できる子はどんどん進んでいく、できない子はどんどん遅れていく」このような実感をもつ現場の先生とつながりたいと思う。

今のICT教育の流れにあからさまに反対することは困難かもしれないが、右のように思っている先生方は多いはずである。

外国のICT教育事情

海外ではICT教育の見直しが進んでいる国が増えている。6か国を紹介する。

○スウェーデン

2020年12月教育庁が提案したデジタル推進の次期戦略を不採択にし、代わりに読書時間を増やし、紙の教科書、学校の図書館の整備・拡充の施策に切り替えた。

○アメリカ

子どもたちの読解力が過去最低に。生徒達が携帯電話に多くの時間を費やし、読書に十分な時間をかけられていないこと懸念している。パンデミック救済金を人件費に充て、少人数指導と学力の厳しい子どもへの支援にあてた3州が2019年のスコアを上回った。またこれらの州が「読書」に重点を置いていることに注目した。

○オランダ

15歳の3人に1人は、テキストに何が書かれているのか理解できない。2012年には8人に1人だった。ほぼすべての子どもたちは、4年前の同じ年齢の子どもたちよりも数学の成績が悪い。今の子どもは、5年前の子どもより、4分の3年遅れている。手書き教育は

オランダの教育の中核目標に明確に位置づけられた。

○デンマーク

紙の教科書に転換する。2025年から2034年までの期間に、子どもや若者の読書好きを増やすために2500万ユーロを確保した。今後よりよい教室と多くの本のために投資される。デジタル化の波が学校に押し寄せ、国の政治家によつて大きく推進したのは歴史的な失敗である。生徒の読解力は大幅に低下している。今後10年間、教科書と本に関する予算があてられた。

○シンガポール

デジタルレジャーの読書と小学生の読解力との間には大きな負の関係があることが示されている。年少の子どもたちは、全ての感覚を使って、具体的な経験を通じて学ぶ必要がある。これは脳の健全な発達につながっている。試験に関して依然としてペンと紙を使用して行われ今のところ、電子試験に移行する予定はないそうである。

○韓国

保護者の85%、教員の94%が人工知能(AI)デジタル教科書の導入に反対している。

今年3月からAI教科書が導入されたが、採用した学校は、32%に過ぎなかった。わずか1学期で、学校現場から実質撤退する。現場からの不満が噴出し、保護者の反対署名や運動によつて8月にはAI教科書が資料に格下げされた。(大阪教職員組合資料より)

ICT教育の「揺り戻し」

一方日本では、2020年コロナ禍を口実に、一人一台端末が渡され、公教育に民間産業の参入を図るGIGAスクール構想が始まった。そこから5年経過し、授業中のゲーム、集中力の低下、学習内容が定着しないという現場からの声が上がっている。学力調査の結果、学力低下が顕著になっている。

このような状況の中で、ICT教育の「揺り戻し」が起り始めている。新井氏が学力研に来てくださるのもこの流れである。先に挙げた世界の国々のような流れを作るのは、先行国の教育政策の「失敗」に追従する日本の状況ではなかなか困難であるが、「揺り戻し」が早々に来ないなら、こちらから起していきたい。その先頭に立つのが「すべての子どもに確かな学力を」という使命をもつ学力研であるという気概と誇りをもちたいと思う。

局長だより

12月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ

●春のイベント紹介

年末には、年明け1月～4月までの学習会の企画を調整したり、最後の確認をしたりするのが、仕事になります。さて、2026年の春の予定は左記のようになります。

☆春 先生のための学校

第1回 3月22日

毎年、たくさんの方が受講されます。特に、初めて担任をするという先生には、わかりやすいと好評です。

☆1年生講座 1回・2回

3月末(連続2回)

1年生の担任準備は、年度末から始まります。事務作業だけでなく、1年生の学力づくりのポイントを教えします。

☆春の愛知・春日井フォーラム

3月29日(日)

毎年、春には、地域サークルのリクエストにこたえて、あちこちで学習会をしています。2026

年は、愛知・春日井が会場です。お近くの方、ふるってご参加下さい。

☆新学期スタート講座

4月4日(土)午後 エル大阪

これも、毎年開いている新学期の学力づくり&授業づくりの講座です。対面の学習会なので、「お土産があるのが嬉しいです」と、参加者の方の感想があります。

◆会員になれば

この年度代わりの時期に会員になっていただければ、どの講座も会員割引で参加いただけます。また、夏には、「シン読解力」の著者新井紀子さんをお招きしての全国フォーラムもあります。会員の方については、優先申込制も検討しています。ぜひ、ごいっしょに学びましょう。

◇事務局だより 岡本 美穂

●第19期先生のための学校

今年度の「先生のための学校」は大きく2つのテーマがあります。

テーマ1 現場は厳しい、しかし、

教師の創意工夫とその哲学によって子どもたちの学力をもっともっと高め、自治意識に満ちたクラスをつくれるはずだ!!
「学力づくりで学級づくり、授業でクラスづくり」を力説する学力研の哲学を学んでいただく!!

テーマ2 「困った子ども、困った親、困った同僚、困った学年主任、困った管理職」

困ったことなんでも相談会の創設!! 全体相談、個別相談、先生のための学校スタッフ、講師が相談に乗ります。

1月17日(土) 理科

「低学年理科的課題から高学年理科までを展望して」

講演1 講師 荒井 賢一
知っていることの発表から授

業を始め、板書に全員で書かせ、交流させ、深めさせる。教科書は毎回使い、必ず音読からスタートする。実験では一部の子だけが活動するのではなく、全員が活動するシステムを考案している。ユニークでだれでも伸ばす理科授業のあり方を語る。

講演2 講師 久保 齋

実験では大活躍でも、テストではさっぱり、そんな子どもを育てたらあかんと考え「実験が先か、学習が先か」実際にやってみて、「理科」学習の二つのパターンを科学しよう。と呼びかけて研究、理科は子どもたちの素朴概念を打ち砕くこと、知識があればあるほどより深い疑問がわく。これが理科の神髄と語る。

2月14日(土)

社会科「低

学年社会科課題から3, 4, 5, 6年それぞれの社会科へ」

19年目を迎える「先生のための学校」です。19年続くには意味があります。ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

学力研カレンダー

《各地のサークル・部会

2025年 12月

例会、イベント》



どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

12/

20 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp

26 (金) 春日井学力研 17時半～ レディヤン春日井(JR 勝川駅) 山口 080-6904-1697

27 (土) 伊丹学力研 長寿蔵 (詳細はおたずねください) 前田 090-9715-3830

1/

24 (土) みなみ学力研 9時45分～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等はこちらでご連絡下さい。

- 伊丹学力研 18時半～ 伊丹市役所横サイゼリア 前田 090-9715-3830
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830
- いろえんぴつ (加印) 18時半～ なんなん広場会議室 岸本 090-9117-6330

《全国キャラバン等 今後の予定》

○ 学力研・先生のための学校【全5回】

9月13日(土) 13時半～16時45分【済】 10月11日(土) 13時半～16時45分【済】

11月 8日(土) 13時半～16時45分【済】

2025年

1月17日(土) 13時半～16時45分 2月14日(土) 13時半～16時45分

○ 1年生講座 第10回 2025年1月24日(土) オンライン

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一

E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛

E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也

E-mail katsuya4k1h9@gmail.com

加藤 英介

E-mail hgrtd533@yahoo.co.jp

家庭塾連絡会の

春の集い

2026年

2月15日(日)

13:30

~

16:00

受付: 13:00~

『春の ほっこり 家庭教育カフェ』

子どもの学習の悩み、出しませんか？

- ・今年度の学習は大丈夫でしたか？
- ・タブレットやスマホの
悩みはありませんか？
- ・学校に行き渋っていませんか？

《場 所》下京いきいき
市民活動センター (2F 会議室1)

京都市下京区上之町38

- ① JR京都駅から東に歩9分
- ② 京阪七条駅 南西歩8分

《参加費》600円

《定員》24名

《申込》メールは西尾へ

Fax・電話は影浦へ
当日受付もあります。



主催：全国家庭塾連絡会

事務局 影浦 邦子方

〒564-0041 大阪府吹田市泉町4-29-13

電話&Fax: 06-6380-0420

E-mail: junsouyu.769@gmail.com (西尾)

当日連絡先: 090-8658-2087 (西尾)

090-1221-3614 (小松)

090-2110-0620 (影浦)

後援: 新日本婦人の会京都府本部

‘25年「春の家庭学習交流会」の様子

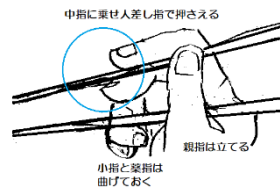


2月16日(日)午後1時より、下京いきいき市民交流センターで春の集いを行いました。参加者は15名でした。書くことの少なくなった時代、書き方、鉛筆の良さ、読み書き計算について一緒に考えていける機会を、との挨拶で始まった今年の春集会。元小学校教諭で「持ち方伝道師」の前田昌彦先生に、実技を交えたお箸、鉛筆の持ち方をご指導いただきました。その後、各家庭塾よりの報告・交流を行いました。



＜実技講座＞ 前田昌彦先生

毎日持つスプーンや箸の使い方を練習しておけば、鉛筆はスムーズに持てる。まずはお箸の練習。力を抜き、指をスムーズに動かす練習が大切。小指・薬指下側の箸は動かさず、人差し指・中指で上側の箸を軽カチカチ音が鳴らせたなら力が抜けた証拠。まずは1本※を使って、外して持って・・・スモールステップ



は使っていない。く動かす。箸先でから、ユビックスで。小さい消しゴ

ムをいくつも積み上げたり、消しゴムをチョコレート菓子に替えたり、子



どもには楽しみを入の上に置き、体を起

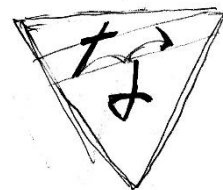


そして鉛筆。書き場所は、両手で机の上に△を作り、右

手を開き起こした位

置で鉛筆を持つ。起こした右手で紙に触れているのは、“豆状骨”と、小指の先少しだ

け。その位置で、指の動きだけで縦に鉛筆は数cm往復でき、線が書ける。横書きは、もっと簡単で、合い言葉は「持ち方変えずに、右・左。」ひらがなを練習するのは、マスに行と段を指定



字の中から△と◎丸にすることでも褒めてあげる。文になれば、字がき入れている子の指

具体的に分かりやすく、実技ならではの、丁寧に指導くださった。子どもたちには、タブレットでなく自分の字を書く大切さを、おうちの方も一緒に考えてほしいということだった。

＜各地（吹田，ハ幡）の報告＞

*吹田の相原さん、栗井さんより、PTA主催の講演会に、東北大学の榊浩平氏を招かれた取り組みについて報告くださいました。

*ハ幡は、「たのしく勉強会」のもよう、挨拶、クイズ、100マス計算・・・6年間の活動を一旦終了された報告が、田野さんよりありました。

